

社会科 遠隔学習指導 実践報告

1. 学年と単元 1年 地理的分野「世界と日本の地域構成」

2. 単元について

本実践は、来年度からの学習指導要領の完全実施を見据え、新学習指導要領の単元構成に基づき実践したものである。この単元の内容については、従前は第1学年の冒頭で世界の地域構成を、第2学年の冒頭で日本の地域構成を学習する単元構成であったが、新学習指導要領では、世界と日本の地理的認識の座標軸を形成することを意図し、これらを一つに統合する形で第1学年の冒頭で扱う内容として再編された。なお、本単元の「内容の取扱い」の中には、(ウ)地球儀や地図を積極的に活用し、学習全体を通して、大まかに世界地図や日本地図を描けるようにすること。が示されている。

この単元の遠隔学習を進めるにあたり、通常授業とは異なる環境による様々な制約（例えば、遠隔学習の授業時間は35分となったこと、生徒の地図帳等の活用状況がその場で把握できないこと、全家庭に地球儀がないという状況など）の中で、進度の確保とともに、どのように本校の目指す探究的な学習を展開していけばよいかを課題となった。進度に関してはこの単元を登校再開後に後回しにするという方法や、授業時間に合わせて無理をせず、進度を遅らせることも当初は考えた。しかし、本単元の学習は今後の地理的分野の学習の基礎となることから後回しにすべきではないと判断した。また、新型コロナウイルスの感染拡大の終息が不透明であったことなどから、限られた時間の中で進度をなるべく落とさず、通常の順番で、遠隔学習ならではの工夫をしながら探究的な学習（主体的な学び、深い学び）を実現することを考えた。そして、その実現のため、次の2点を授業設計の際に工夫点として各授業に組み込むことを考えた。

- ① 自ら学習できるところはあらかじめ予習課題に取り組みさせて授業に臨ませ、遠隔学習では可能な限り初見の資料を用いて授業を行う。
- ② 電子地図や地球儀を使った学習に有効なリソースなど、生徒が自ら調べたり深めたりすることのできるWeb上の教材を活用することや、学習内容の理解に有効な動画等を教師が示し、それを生徒が視聴することを通して、実感を伴った深い理解へ導く。

なお、これらの工夫とあわせて、生徒がオンライン上でいつでも質問ができるようなコーナーを設置したり、質問や授業を振り返って考えたことや提出させる課題を設定したりして、学習の振り返りを促した。また、社会科通信を使い、生徒の感想や意見に対するフィードバックを行う頻度を高くすることで、生徒の学習に対する疑問やつまづきを少しでもなくそうと工夫した。また、1年生の最初ということもあり、ノート例（ワークシート）を示し、適切に授業内容をまとめさせる方法についても工夫した。

3. 本単元の目標および評価規準

(1) 本単元の目標

- ・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、世界と日本の地域構成を大観し理解するとともに、世界と日本の略地図を描くことができる。（知識・技能）
- ・地図や地球儀の特性を、世界の地域構成の特色（大陸や海洋の形や面積、位置関係や方位、緯度や経度など）に着目して多面的・多角的に考察し、表現するとともに、日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。（思

考・判断・表現)

- 世界と日本の地域構成について、予習や遠隔学習に主体的に取り組むとともに、様々な国家や人々の間で見られる課題を主体的に追究しようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 本単元・本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。 我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。 地球儀や地図を積極的に活用し、学習全体を通して、大まかに世界地図や日本地図を描けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や地球儀の特性を、大陸や海洋の形や面積、位置関係や方位、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の地域構成について、予習や遠隔学習に主体的に取り組むとともに、様々な国家や人々の間で見られる課題を主体的に追究しようとしている。

<単元構成・評価の計画> ●=学習改善につなげる評価 ○=評定に用いる評価

時	学習内容	知・技	思考	態度	遠隔学習に際しての工夫点①、②との関連
1	世界の姿～大陸・海洋と州～	● 知・技			<ul style="list-style-type: none"> Google Earth の衛星画像を用いた大陸と海洋の小テストを実施する。(①) ※ Moodle の「テスト」機能を利用し評価
2	世界の国々	● 知			<ul style="list-style-type: none"> 様々な国の出身者が登場する動画を導入教材として使用し、世界には多様な国があることに関心を高める(②)
3	地球上の位置の表し方	● 技			<ul style="list-style-type: none"> 地図帳や「国土地理院地図」の座標入力により位置を表すシステムを使い、地球上のどの場所かを調べさせる課題を出す。(②) 等時帯表を活用して調べた世界の都市の時刻と日本との時差を、ライブカメラの画像を見ることで実感させる。(②)
4	地球儀と地図	● 技		○ 思考	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀の代わりに「i地球儀」アプリ(帝国書院)を用いて、グリーンランドとオーストラリア大陸の大きさを比較する。(②) ※作業を映像化したものを見て生徒が確かめる形態 様々な地図を紹介するサイトを紹介し、「地図にしかない良さ」について考える(②) ※ Moodle の「課題」機能を利用し評価
5	小括(世界の略地図の描き方)	○ 知・技			<ul style="list-style-type: none"> 世界の略地図の描き方を学ぶとともに、第1～第4時の学習内容を略地図にまとめる。 ※ノート提出時に評価
6	世界の中での日本の位置		● 思考		<ul style="list-style-type: none"> サイト「どこでも方位図法」等を活用して、行きたい国のある場所から、日本の位置を紹介する説明を考える。(②) ※ Moodle の「課題」機能を利用し提出させ、評価
7	日本の領域			● 態度	<ul style="list-style-type: none"> Youtube 海上保安庁チャンネルの「【海上保安庁業務紹介】～海を愛し 海を守る～」を視聴させ、日本の EEZ の広さや海上保安庁の活動について理解を深める。(②) ※ Moodle の「感想」機能で本時の学習について考えたことを書く
8	日本の都道府県と地域区分	● 知・技			<ul style="list-style-type: none"> 都道府県 3 ヒントクイズに解答させるとともに、自らも地図帳などを活用し、3 ヒントクイズを作り提出する(①) ※ Moodle の「課題」機能を利用し評価
課題	日本の略地図の描き方	○ 知・技		○ 態度	<ul style="list-style-type: none"> 日本の略地図の描き方を学ぶとともに、第7・第8時の学習内容を略地図にまとめる。 ※ノート提出時に単元の学習状況と合わせて評価

4. 生徒の学習の実際

遠隔学習が始まり、当初はパソコンの操作等に慣れない生徒や、教員が出す課題量が多かったため時間内に終わらないなどといった姿も散見されたが、保護者のサポートなどもあり、遠隔学習期間を通して概ね順調に学習を進めていた様子が見えてきた。

第4時では、等時帯表から時刻を読み取り、その後ライブカメラで生徒自身が、現在のその土地の状況を調べるといった課題を課した。現地の人々の生活の様子を実際に垣間見ることができたため、授業の振り返りには、経度によって時刻が違うということだけでなく、地球上に様々な生活の様子が広がっていることを実感できた様子が見えてきた。なお、一部家庭ではフィルタリングのため視聴できない場合があることに授業開始直前で気づき、スクリーンショットを授業後に掲載し、フォローを試みた。

第6時では、地図帳等の手元資料や「どこでも方位図法」というサイトを用いて、自分が海外で行ってみたい都市（国）から日本の位置を紹介する探究的な課題を提示した。簡便に利用できるサイトであると思われたが、方位の表し方についての誤りが多かった。この辺りは、実際に地球儀に触れての授業ができなかった影響があるのではないかと分析している。

右図は、第7時の生徒による遠隔学習の振り返りの一部である。この回では日本の領域や排他的経済水域について基本的な内容を学習したのち、まとめとして海上保安庁の動画を見るようにリンクを提示したが、生徒にとってこの動画は普段身近に感じられていなかった経済水域についてかなりインパクトがあったようで、もっと知りたいという声が多かった。教員の講義だけでなく、有効と思われる動画を適宜利用していくことが学習の充実につながるとともに、探究的な学びに向かう姿勢を引き出したと考えられる。

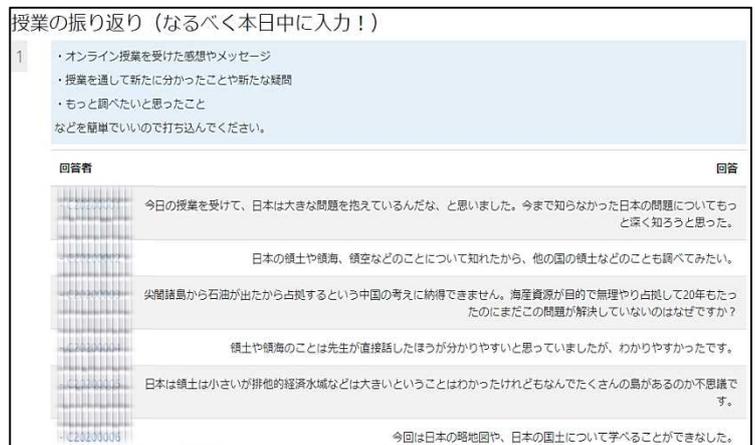


図 Moodle での振り返りの様子（第7時）

お茶の水女子大学附属学校園で使用している Moodle 画面から引用

5. 生徒の学習効果と展望

遠隔学習終了後にノート点検を行ったが、大半の生徒はノート例をもとに理解しやすい形のノートを作っていた。一部、ノートの取り方が不十分な生徒も見られたが、対面授業が始まってから、より良いノートの作り方について全体指導を行ったり、個別指導で対応したりした。遠隔では難しいのが、このような個別具体的な丁寧なフォローアップであろう。定期試験等の結果を参考にしながら、学習内容の定着が図られているかも合わせて、継続して個々の学びの状況を確認していきたい。

遠隔学習のメリットとして、生徒がいつでも確認・復習できる点や、自分のペースで学習に向き合える点など、個別に最適化された学びに近づく点が挙げられる。今回扱った単元は、その性質上、地理の基礎・基本となる知識を獲得することが中心となっていたため、遠隔学習が比較的フィットしていたと考える。その一方で、世界地誌のように、地域そのものを深く理解していくことがねらいの単元が遠隔学習だった場合、議論したり対話したりといった活動に制約がある環境の中で見方・考え方を広げ深めていくためには、全く別の工夫点が必要になってくるだろう。遠隔学習と対面学習に向く単元、すなわち個別学習に向く単元かどうか？という視点で社会科を捉え対面か遠隔かを選択していったり、単元のねらいにあわせて遠隔学習の工夫点を考えていく必要があるだろう。